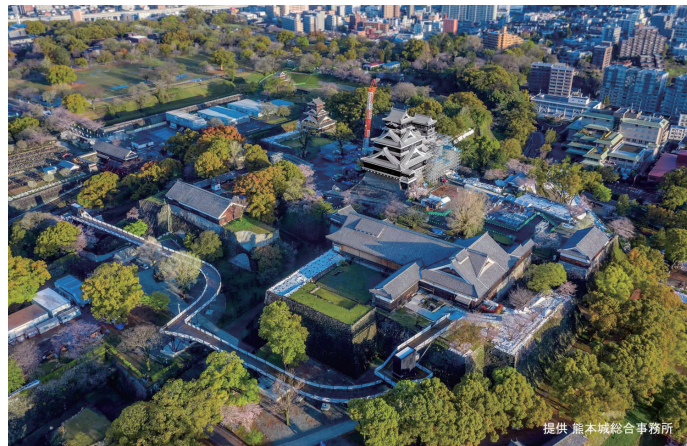


熊本城特別見学通路



外観

熊本城復旧工事完了までの20年間を見届ける空中歩廊。特別史跡内の厳しい制限の中、全長350m、高低差21mの一筆書きの柔らかな弧を描き、文化財の復旧過程を間近に見ることができる、特別見学通路が完成した。



外観(夜景)

ライトアップした夜景。足元の片側にLEDライン照明を設け、床面のヒノキから欄干メッシュへ光を当てることで、通路全体を柔らかな光で浮かび上がるように演出している。



見学通路

古い石垣と、新しい石垣が築き足された場所。通路欄干部は4パターンメッシュを組み合わせ景色に溶け込む白屏風を模し、景観に調和するよう考えられた。石垣の美しさを実感でき、撮影スポットにもなっている。



見学通路 アーチ部分

石垣を飛び越える約50mの大スパンアーチ構造。床材、根太は熊本県産のヒノキを使用し、構造の軽量化にも寄与。熊本城の景観を損なうことなく、見学者の視線に配慮し、構造躯体は極力小さく見せるよう工夫した。

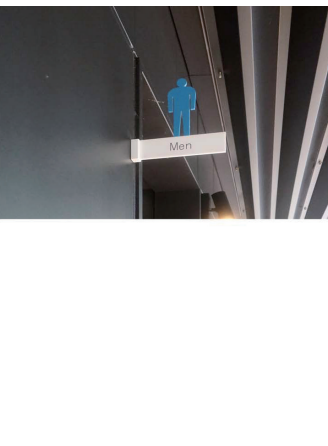


トイレ前スペース

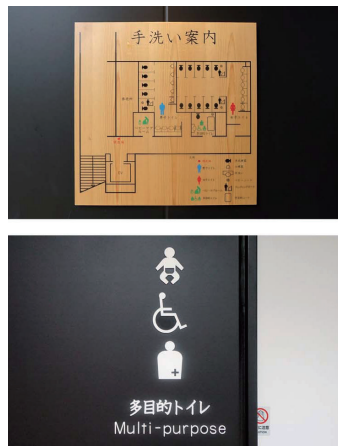
熊本城の景観と調和する空間意匠。防犯の視点から女性トイレは奥に位置し、男女で使えるベビーケアルームは手前に配置。トイレ入口近くには、待ち合わせや休憩用にベンチを設置している。



トイレ入口



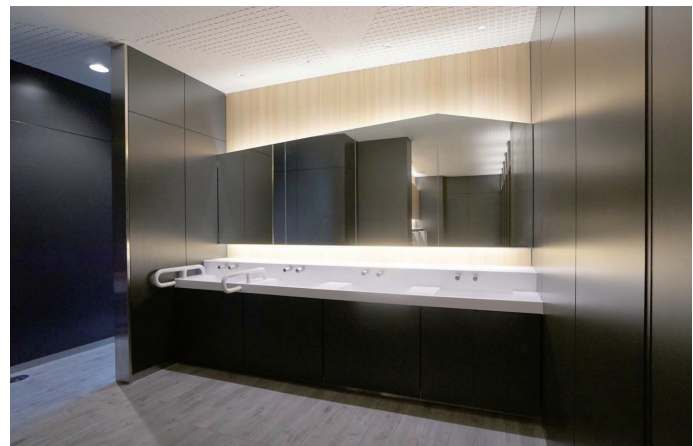
トイレの突き出しサインは遠くからでも見やすい高さに設置。訪日観光客の利用も想定されることから、デザイン性はもとより、極力シンプルにわかりやすさを優先させて検討された。



トイレサイン



トイレ入口に触知図を掲示し、トイレ内部の設備が確認できる。また大きなイラストと白抜きコントラストが効いた表記により、男女トイレと多機能トイレがひと目でわかるようにしている。



男性トイレ 洗面コーナー

2段のカウンターでドライエリアを設け、荷物の置き場所に配慮した、機能的なカウンターを採用。感染、衛生配慮として、自動水栓と水石けん供給栓を設置している。

男性トイレ
小便器コーナー

熊本県阿蘇山の山容を表現した照明パネルが印象的な小便器コーナー。シンプルなデザインと節水機能を両立した壁掛式の自動洗浄小便器を設置している。

男性トイレ
小便器コーナー

小便器横にはフックを設置し、傘や手荷物に配慮。小便器の前面板は黒を採用。器具を白とすることでコントラストがはっきりし、ユニバーサルデザインの観点からも視認性に配慮している。



男性トイレ 大便器ブース

紙の削減や、宗教上の慣習で水洗いで清めるという訪日外国人などへの配慮も鑑み、全洋式便器とし、ウォシュレットを設置している。

男性トイレ
ひろびろブース

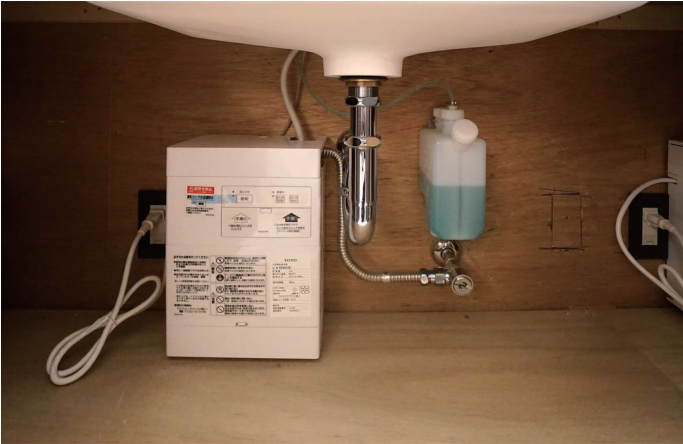
男性トイレには、小さなお子様連れに配慮して1ヶ所ひろびろブースを設置。ベビーチェアやフィッティングボードを配置し、親子でゆったり使えるように配慮している。

熊本城特別見学通路



女性トイレ 洗面コーナー

団体の観光客が利用しても混雑しないよう、広々とした洗面カウンターを設置。鏡は大型の一面鏡を採用し、混雑時に少しでも多くの方が、同時に身だしなみが整えられるよう工夫している。



女性トイレ 洗面コーナー

気温が低くなる冬季に備え、お湯が使用できるように小型電気温水器を設置。メンテナンス性を考慮し、洗面器ごとに1台ずつ設置。また、水石けんの残量把握や補充がしやすいよう、機能部をカウンター下に納めている。



ベビーケアルーム



乳幼児連れに配慮し、授乳室も準備している。また、ベンチタイプの長椅子は背もたれを倒すことができ、緊急時には一時的に簡易ベッドとして利用できる。



女性トイレ
大便器コーナー

団体客の利用を想定し、器具数を綿密に検討。大便器ブースの間仕切り壁を天井まで立ち上げ、防犯対策を図るとともに個室感も高めている。



女性トイレ
ひろびろブース



お子様連れに配慮して、ベビーチェア・フィッティングボードを設けたひろびろブースを1ヶ所設置。ウォシュレットのリモコンは、ボタンを押すたびに発電し、乾電池や電源工事が不要なエコリモコンを採用している。



ベビーケアルーム

衛生面に配慮し、清掃性に優れた壁掛ハイバック洗面器を採用。冬でも温かいお湯が使えるよう電気温水器を設置している。また、見学通路内ベビーカーの貸出しも行っている。



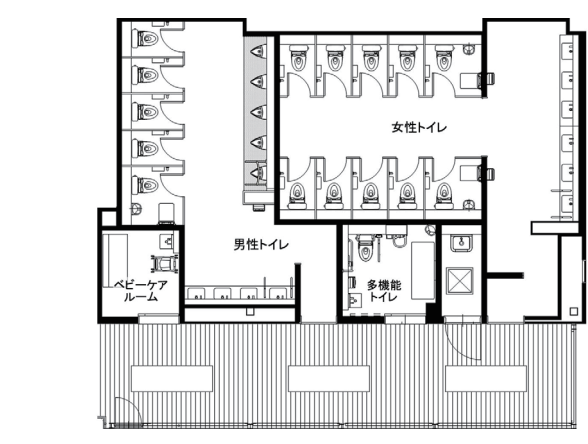
多機能トイレ

車いす使用者やお子様連れ、オストメイトなど、さまざまな使用者に対応できる設備を完備している。



多機能トイレ

外国人配慮として、多言語対応（英語・北京語・台湾語・韓国語・タイ語）の音声ガイドを設置している。（多機能トイレ・一部の一般ブース共に音声ガイド設置）



トイレ図面

団体の観光客が利用しても混雑しないよう、広々としたトイレ空間を確保。防犯の視点から女性トイレは奥に位置し、男女で使えるベビーケアルームは手前に配置した。

水まわりの特長

建物の特徴

2016(平成28)年に起きた熊本地震により、甚大な被害を受けた特別史跡の熊本城は、復興のシンボル。その復旧にあたって、熊本城復旧基本計画が策定され、被災した城内を安全に見学ができ効率的・計画的復旧と戦略的な公開・活用を両立したユニークな「特別見学通路」が、2020(令和2)年3月に竣工された。熊本城は特別史跡でもあり、遺構保護のため掘削ができないことから置き基礎とし、遺構によって基礎位置が制限されることや景観配慮から、既存樹木を極力避けたルート設計を行い建築では珍しい構造を採用。その工法が認められ、日本空間デザイン賞「KUKAN OF THE YEAR 2020」など数々の賞を受賞。復旧完了までの20年を見届ける、新たな取り組みが始まった。

水まわりの特長

特別公開をするにあたり想定される来場者の数から当該トイレの規模を決定。さまざまな制限の中、空堀の空間に見学通路入口でもある管理棟を建設し、その中にトイレを配置。地面掘削をせずにトイレを設置することが可能となった。また復旧期間中の20年使用することを考慮し、来城者が快適に使用できるよう整備した。トイレ内外は、熊本城天守閣の「白」と「黒」を基調としており、トイレ全体を同色調で統一している。今後インバウンド利用が増加することを想定し、一部ブースには多言語によるトイレの音声案内装置を設置。さらに、新たに採用された器具も、以前より使用していたウォシュレット管理清掃用リモコンが継続して使用できることなど、運営スタッフからはメンテナンスのしやすさが評価されている。

建築概要

名称	熊本城特別見学通路
所在地	熊本市中心区本丸地内
施主	熊本市
設計	株式会社日本設計
施工	安藤・間・武末・勝本建設工事共同企業体
竣工年月	2020年3月
敷地面積	42,347.731㎡
建築面積	927.42㎡
延床面積	219.70㎡
構造・階数	鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造・地上1階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・タンク式:CS597BCS
ウォシュレットPS（擬音装置「音姫」付きエコリモコン）:TCF5533AYR
ウォシュレットアブリコットP（温風乾燥付きエコリモコン）:TCF5840PR
管理清掃用リモコン:TCA393
柵付二連紙巻器:YH702
自動洗浄小便器:US900JCS
壁掛ハイバック洗面器:LS125DM
壁付自動水栓:TENA125AH
水石けん供給栓:TLK0420J
クリーンドライ（ハンドドライヤー）:TYC420W
コンパクトオストメイトバック:UAS81RSB2NB
収納式多目的シート:EWC520AR系
ベビーチェア:YKA15系、YKA16系
フィッティングボード:YKA41系
フック:YKH22
パブリック用手すり:T114C6、T112CU22
幼児用手すり:YYB10
背もたれ:EWC285CS